



コレクション展Ⅰ「ベスト・オブベスト2025」関連 こどものイベント

「タテながヨコながの世界 第2弾」でも、丸からはじめよう！」

■開催日時：2025年9月28日(日) 13:30～15:00

■概 要

■参加者：こども9名、保護者7名

ワークシートに掲載された作品の一部（形）を手

■対 象：小学3年生～中学生

がかりに、常設展示室の作品から該当するものを探

■場 所：常設展示室、レクチャールーム

し観察。最後に全員で意見交換を行いました。

■オリエンテーション、鑑賞の導入

前回、大変盛り上がった「タテながヨコながの世界」の第2弾！今回は「タテながヨコなが」の絵の中にある"丸"に注目したプログラムを行いました。

最初に、エドューケーターから子どもたちにワークシートを配布。ワークシートには、さまざまな色の作品の一部（丸やかたち）が11個掲載されています。これらの形を手がかりに、展示室の作品から該当する作品を探してもらうように伝えました。



エドューケーターによる活動説明

◇参加者の感想（※原文をそのまま紹介）

- ・丸でもいろんなかたちがあったことが、わかった。えがどのようにつくられたか見てみたい。（小3）
- ・絵の丸の形がぜんぶちがった！丸は丸でもふしぎだった。もっと絵をたくさんみて、ちがう、おなじをしりたい。（小3）
- ・じっくり絵を見る時間があってよかった。細かいところまで見る良い機会となった。（保護者）
- ・美術館を身近な場所だと感じられるよいイベントでした。ありがとうございました。（保護者）

■鑑賞活動～丸に注目して～

活動は、常設展示室1階で行いました。子どもたちはワークシートを片手に展示室をゆっくり歩きながら、作品をひとつずつ丁寧に観察していきました。見つけた作品をそっくりりにスケッチしたり、「この丸はなんだろう？」と保護者と話し合ったりしながら、11つの質問に夢中になって取り組みました。なかでも、田中敦子《作品》は、絵に登場するたくさんの丸の中から"ピンクの丸"だけをワークシートに掲載した難問でした。「これは見つけるのがむずかしい！」「丸もあるけど、線もいっぱいあっておもしろい！」と、子どもたちは"丸"以外のかたちや色にも注目し、楽しそうに鑑賞していました。



展示室で丸をさがす様子

■お話会

鑑賞の後はレクチャールームに移動して、お話会を行いました。先ほど見た作品がスライドに映し出されると、子どもたちは画面を見つめながら自分の発見を、発表してくれました。

吉原治良《黒地に赤い円》では、最初に「赤い丸があった！」と元気な声。そこで「もっと詳しく教えて」とたずねると、「きれいな丸じゃなくて、上のほうがくぼんでいる丸だった」「左右の幅が少しちがっていた」と、細やかな観察の意見が続きました。また、坂田一男《女と植木鉢》に描かれた"赤い丸"については、「植物の種だと思う」「赤い丸のほかにも、いくつか丸がある」などの意見があがりました。すると、それを見守っていた保護者の方からも「赤い丸は5つあるから足の指かもしれない」との声が。子どもと大人が一緒になって作品を見つめ、意見を交わす姿に、会場は一層賑やかになりました。

■意見交換、ふりかえり

それぞれが見つけた"丸"について発表し合う中で、子どもたちから「最初は丸だと思っていたけれど、ただの丸じゃなかった」という声があがりました。確かに、吉原治良の丸は大きくて力強く、画面の中心で堂々とした存在を放っています。一方で、田中敦子の丸はリズムカルに並び、まるで動き出しそうな小さな丸が沢山描かれていました。"丸"という同じ形でも、絵によって、画家によって、その意味や表情、伝わる印象がまるで違うのです。"丸"さがしを通して、子どもたちは形を見つけるだけではなく、描いた人の表現の工夫や、作品ごとの個性にも目を向けてくれ、有意義な鑑賞時間となりました。
(小田美沙紀/ エドューケーター)



参加者のワークシート（部分）

□担当学芸員からのコメント

まず、イベントのネーミングが気に入っています。タテなが、ヨコなが、と言っておきながら、○からはじめるとは、いったい何なんだ！と準備しながら笑ってしまいました。しかし、ですね。笑いながら、、、というのが今回の味だったかも、と終わった今では思っています。それに、展示室に入って作品を見ても、○が気になって仕方ないですね、今なお。本当のところをいうと、○を探すことにそんなに意味はないのですが、○を見ているうちに、○は○でも、この絵とあの絵ではちょっと「違う」と気づいてきます。違いがあるなあ、ふうん、と思ってもらっていたら嬉しいです！そして、眼の体操にもなっていたら、もっと嬉しいです。○を見つけてくれた皆さん、ありがとう！
(西田学芸員)